

ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学子ども学科

准教授 福泉 博子

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として保育士資格、幼稚園教諭2種免許状取得における音楽・ピアノにおける分野の教科を担当している。

2023～25（前期）年度の担当科目は（表1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
音楽Ⅰ	2024	前期	1年生	演習	30名	2クラス ※教員2名
					28名	
	2025	前期	1年生	演習	23名	
					23名	
ピアノⅠ	2024	前期	2年生	演習	22名	2クラス ※教員5名
					24名	
	2025	前期	2年生	演習	28名	
					28名	
ピアノⅡ	2024	後期	2年生	演習	13名	2クラス ※教員4名
					13名	
保育内容表現	2023	後期	1年生	演習	48名	1クラス ※教員3名
	2024	後期	1年生	演習	57名	
保育内容表現の 指導法	2024	前期	2年生	演習	45名	1クラス ※教員3名
	2025	前期	2年生	演習	57名	
子ども文化演習 B	2023	後期	2年生	演習	67名	※教員3名
	2024	後期	2年生	演習	41名	
子ども学ゼミナールⅠ (子どもの音楽)	2023	前期	2年生	演習	67名	※教員6名 音楽ゼミ12名
	2024	前期	2年生	演習	47名	
						音楽ゼミ11名

キャリアアップ セミナーⅢ	2024	前期	2 年生	演習	47 名	※教員 4 名
	2025	前期	2 年生	演習	57 名	
キャリアアップ セミナーⅣ	2024	後期	2 年生	演習	47 名	教員 4 名
保育入門	2023	通年	山村国際高 校 3 年生	演習	7 名	※教員 5 名 後期担当
	2024	通年			13 名	

(表 1) 2023～2025 (前期) 年度 担当科目詳細一覧

委員会名	年度	備考
図書・紀要委員会 2024 年度まで委員長	2023 ～ 2025	図書等の購入。 紀要の編集と発行。図書館便りの発行。 埼玉県 図書館と県民のつどいへの参加。 図書館アンケートの実施。学園祭への参加。 くつろげる空間づくり等を行う。 図書委員会（学生）の指導
学生支援委員会 (委員長として)	2023 ～ 2025	学生の学園生活の指導や支援。心のケア。 遠隔地通学生、職業訓練生の対応と支援。 学生会（総務委員会・山緑祭実行委員会）の対応 学生総会・学園祭等の学生主体行事の取りまとめ サークル活動の対応。 学園祭の運営 各種奨学金に関する対応。 避難訓練、交通安全運動の実施。 プレコンセプションケア講座の開催 包括的性教育講座の開催 消費者トラブルについての講座

(表 2) 2023～2025 年度 委員会詳細一覧

2. 教育の理念

私が音楽教育に携わってきた中で、保育者を目指す学生たちに対して心がけていることは、音楽の基本や原点を丁寧に指導するとともに、感じる心や想像力を養うことである。そして、子どもたちと一緒に音楽活動を楽しみ、伝えることができる人材を育成することである。

保育者を目指す学生の中には、ピアノ未経験者や初心者が非常に多く、基本的な知識も皆無である。音楽の知識やピアノ奏法などの技術を学ぶことは大変困難ではあるが、2年間という短い時間の中で保育者として自信をもって音楽活動に取り組めるよう、次にあげる7つの項目を学生に習得してほしい。そして、広い視野と柔軟な心や発想力で子どもたちの心を育むとともに、保護者や地域の方と関わってほしいと考えている。

- ①楽譜を読む力（読譜力）
- ②演奏する力（ピアノなどの鍵盤楽器・子ども達が扱う楽器）
- ③歌唱力（正しい発声ができる。適度な声量で子供と一緒に楽しみながら歌える。）
- ④感じる力（自然や生活の中で五感を使って感じる）
- ⑤想像力（物事をよく考え頭の中に思い描く）
- ⑥創造力（新しいものを作り出したり工夫する）
- ⑦表現する力（声や体、楽器はもちろん様々な手法を使った音楽表現、総合表現）

3. 教育の方法

担当している教科は演習科目であり、1名で担当する科目もあれば、複数で担当する科目もある。ここでは、専門分野の「音楽Ⅰ・Ⅱ」「ピアノⅠ」についての教育の方法を示す。

（1）音楽Ⅰ・Ⅱ 1年生

【授業の概要】

保育士資格必修の本科目は保育者として必要となる音楽の基礎的な知識、技能の理解と習得を目指す。そのため、楽典や歌唱法、ソルフェージュに関する授業を前期に、ピアノや弾き歌いなどの個人レッスンを後期の授業で実施し、音楽全般について総合的に学習する。また、本学の自然環境を生かした環境での音遊びを行い、五感と想像力を養う。

【ねらい】

- 1) 幼稚園や保育所などで歌う「こども・幼児のうた」の特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながら子どもの指導ができる力を身につける。
- 2) 自然や生活の中にある音を感じ、声や身体、楽器、身近にあるものを使って音楽を奏でる方法を習得する。また、それらの方法を用いて、子どもの発達に合わせた活動が出来るようにする。

【内容と到達目標】

音楽Ⅰ

- ①こどものうたの特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながらこどもと関わる。
- ②本学オリジナルの楽典教則本を活用し、保育現場で必要とされる音楽知識を身につけ、読譜力を養う。
- ③合唱や合奏を通して演奏する楽しみ、他者と合わせる楽しみを体験の中から感じとる。
前期は2名の教員で授業を行う。
①②では音楽（ピアノ）未経験・初級者クラスと経験者クラスの2グループに分けて、グループレッスンや個別指導で学生一人一人が理解できるよう心掛けた。また、③ではグループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と人との関わりを学べるようにした。

音楽Ⅱ

- ①初級者は、ピアノ・弾き歌い進度表（山村短大オリジナル）の応用Ⅱまでの習得。
- ②中級者は、ソナチネアルバムⅠやブルグミュラーの習得。
- ③上級者は、ソナタアルバムや同レベルのピアノ曲の習得。
- ④生活のうた、季節のうたなどを通して、子どもの心に伝わる歌い方ができる。
- ⑤子どもの歌、手遊び、読み聞かせ等保育者は発声をする機会が非常に多い。

声楽レッスンを取り入れ、豊かな声で歌唱、発声ができるようにする。

音楽Ⅱでは、ピアノレッスン（4名）、声楽レッスン（1名）計5名の教員が毎週個人レッスンを行う。学生一人に対してのピアノレッスン時間は18～20分。その他の時間は個人練習時間とし、課題練習の時間にあてた。ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個々にあった指導を心掛けている。また、声楽レッスンは3週に1度15分程度の個人レッスンを実施し、歌唱表現力向上をねらう。

（2）ピアノⅠ

【授業の概要】

保育現場で必要とされる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法を学ぶ。ピアノ未経験者から上級者まで、個々のレベルに合わせたレッスンを行う。初級者はバイエルなどの教則本を使い初歩的技術の習得を、中・上級者はソナチネなど様々な楽曲を用いて総合的な音楽力を身につけ、園生活で使われる基本的な生活の歌を習得する。

【ねらい】

読譜力を身につけ、正しい運指法、打鍵法で演奏できるようにする。幼稚園・保育所等で歌う生活の歌を弾き歌いできるレベルを目指すとともに、歌唱活動の進行や指導ができるようにする。。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、6名の教員でピアノレッスン（個人レッスン）を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15～20分程度。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を

配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②初級者は「ピアノ・弾き歌い進度表」の基礎Ⅰまでを、中級者は基礎Ⅲまでを、上級者はソナチネ・ソナタ・ブルグミュラーなどが演奏できる。
- ③園で歌われる生活の歌や季節の歌、童謡などの弾き歌いができる
- ④歌唱活動における進行や指導ができる

4. 教育の成果、評価

2024年度の前期・後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。各設問の内容は次の通りである。(表3-1,2,3)

問1 学生自身の、この授業への取り組みについて
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。
問2 授業内容について
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。
問3 授業の進め方について
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
問4 全体的評価
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。

(表3-1)

2024 年度の前期授業アンケートの結果一覧（5 点満点）

	音楽Ⅰ	ピアノⅠ	保育内容表現の 指導法	子どもの音楽 ゼミナール
問 1	1 4.40	1 4.49	1 4.17	1 4.73
	2 4.38	2 4.63	2 4.52	2 4.73
	3 4.56	3 4.59	3 4.50	3 4.82
	4 4.24	4 4.56	4 4.38	4 4.91
	5 4.20	5 4.63	5 4.40	5 4.82
問 2	1 4.52	1 4.63	1 4.45	1 4.82
	2 4.20	2 4.61	2 4.45	2 4.82
	3 4.10	3 4.61	3 4.48	3 4.82
	4 4.42	4 4.66	4 4.45	4 5.00
問 3	1 4.60	1 4.76	1 4.57	1 5.00
	2 4.58	2 4.76	2 4.48	2 5.00
	3 4.60	3 4.59	3 4.48	3 5.00
	4 4.46	4 4.61	4 4.48	4 5.00
	5 4.58	5 4.68	5 4.43	5 5.00
	6 4.50	6 4.71	6 4.43	6 5.00
問 4	4.50	4.66	4.26	4.91

（表 3－2）

2024 年度の後期授業アンケートの結果一覧（5 点満点）

	ピアノⅡ	子供文化演習 B	保育内容表現	保育入門
問 1	1 4.38	1 4.42	1 4.34	1 3.82
	2 4.58	2 4.58	2 4.40	2 3.91
	3 4.54	3 4.55	3 4.40	3 4.55
	4 4.58	4 4.52	4 4.42	4 4.36
	5 4.46	5 4.52	5 4.40	5 4.36
問 2	1 4.58	1 4.55	1 4.40	1 4.55
	2 4.54	2 4.39	2 4.44	2 4.55
	3 4.58	3 4.33	3 4.42	3 4.55
	4 4.54	4 4.52	4 4.46	4 4.64
問 3	1 4.58	1 4.39	1 4.44	1 4.73
	2 4.58	2 4.42	2 4.38	2 4.73

	3 4.46	3 4.52	3 4.42	3 4.73
	4 4.58	4 4.48	4 4.48	4 4.73
	5 4.63	5 4.45	5 4.44	5 4.73
	6 4.63	6 4.48	6 4.44	6 4.73
問 4	4.50	4.39	4.42	4.36

(表 3 - 3)

(1) 音楽 I

全項目の評価が 4 点代中～後半の高評価だった。年々音楽やピアノの経験が少ない学生が増えてきている。2024 度はピアノ未経験者や音楽の基礎知識が無い学生が多いことが予想されていた為、未経験、初級、経験ありの 3 グループに分けて授業を展開した。また、多様な学生に対応するために音楽・ピアノ担当教員と協力をして読譜力習得に特化したテキストを作成し授業に活用した。

問 2「授業内容について」では、授業内容のレベルは適切か、授業進度は適切かの項目で例年より若干低い評価となった。これは、先述した通り職業訓練生も含め音楽やピアノの未経験者が本年度は非常に多く、読譜力のための学びに難しさを感じたことが原因と思われる。また、問 3「授業の進め方について」でも、進度が速いと感じた学生が複数おり、評価が低くなった。しかし、問 4 の全体評価では、4.50 の評価を得ており、教員が学生に対して適切な対応を行い、学生の理解を深めようと丁寧に対応した結果と思われる。

入学までに音楽（ピアノ）の経験の有無で習得の差が大きい教科ではあるが、全学性が保育者に求められる水準を達成できるよう、指導についても常に改善をしていきたい。

(2) ピアノ I

全設問中、平均点が最も低かったのは問 1 の 1、欠席についての設問である。確かに前期のピアノ I の授業は、欠席、遅刻が例年に比べとても多いと感じた。もちろん学生全員がそうではないということは、この設問の標準偏差が全設問の中で最も高いことから窺える。遅刻欠席のないように指導していきたい。

問 3 の 1, 2 にある教員の話し方についてと、授業の説明の仕方がわかりやすかったかという設問に対する平均点が、4.50 点と最も高かった。全員に対し説明をする授業とは違い、学生一人一人のレベルに合わせた説明ができていたものと思われる。特に、問 2 の 4 は、平均点も高い上に標準偏差が最も低かった。3 の評価を付けた学生が 5 人と少なく、学生が技術の向上を感じていると言えよう。

また、問 2 の 4 と、問 3 の 5, 6 も平均点が高かったことにも注目したい。実際に、日々の積み重ねで学生の力が向上したと教員も感じている。継続は力なりで、怠けることなく、毎日少しでもピアノに触れて練習する時間をとるように引き続き指導していきたい。アンケートからは、概ね授業の内容や進め方、自身の習熟度に満足したという評価であったことはとても喜

ばしい。座学の授業とは違い、学生一人一人にとって適切なレベルを図り、能力に合わせた楽曲や練習法を提示して指導に当たっている。これからも、個々の能力をよく見極めて適切な指導を行っていききたい。

（３）ピアノⅡ

平均を見ると、全ての項目で 4.3 を超えた。標準偏差の大きいところを見ていくと、問 3-3 はこの授業では板書やプロジェクターの利用がないことから、字義通り捉えるかどうかで差が出たようである。また、問 1 の各項目で評価のばらつきが見られ、これは自己評価のばらつきとも捉えられる。問 1-1 の欠席、遅刻・早退に関しては、就職試験等で休まざるを得ないこともあり、また学校行事の準備等でところならずも遅刻するなど、必ずしも本人の自覚の欠如を要因とはできないケースもあったことは言及しておきたい。

問 2-2 など 3 の評価が散見されるのは意外に思った。2 年生後期ともなると試験曲の選択範囲の制限がほぼなく、ピアノ曲にしても弾き歌い曲にしてもそれまでよりも広いジャンルから自分で選び取ることができる。前期に比べて履修者の減少もあり、各担当講師と相談する時間もあるのだが、最後だからと背伸びした選曲にしたり、思っていたより練習時間が取れなかったことへの最終的な評価と見ることもできる。

今年度の弾き歌い試験時に、各自選曲した弾き歌い曲を皆で一緒に歌うという試みをした。これは人数が多いとできないことであった。実際の試験においては、評価する対象であるその学生 1 人で弾き歌いを行う形式は変えづらい。しかし、現場ではむしろ 1 人で弾き歌いをする機会の方が少なく、こうした試験の評価とは別のところで、自分の伴奏（と歌）で、皆も一緒に歌う機会を設けられたのは良かったと思う。ただ自由記述には、さらに現場に即した形式を求める声もあり、一人一人を評価する試験と、現場において、演奏技術、歌唱技術に加えて求められる別の要素を限られた時間の中でどう言及していくか、また試験に取り入れていくか、難しい問題であるが、今後も様々に試み、改善できるところはしていきたい。

（４）保育内容表現の指導法

問 1 「あなたの自身のこの授業への取り組みについて」では出欠について 4.17 と他項目より若干低い評価になっている。数名欠席が続く学生はいたが、実習やオリエンテーションなどでの欠席であるため問題はない。

問 2 「授業内容について」では、4.45、4.48 と高い評価を得ている。また、問 3 「授業の進め方について」でも、4.43～4.57 と高い評価を得ておりこの授業に対して多くの学生が満足する内容だった。知識や能力が深まったと感じてくれたようだ。自由記述では各分野の授業内容が楽しかったなどの意見が多く、表現の楽しさを感じてくれた学生が多かった様だ。その他に、少ない授業回数を 3 分野で分けてしまうと内容が薄くなるとの意見があり、教員間でも問

題点として出ていた内容なので改善をしていきたい。

表現や協働が苦手な学生も多いと思うが、考えや思いを言葉で伝える大切さや意見を交えながら物事を進めていくことを学生には学んでほしい。

（５）保育内容表現

すべての項目で４点代半ばの評価を得ており、学生の授業に対しての満足度は高く、子どもの成長において表現の重要性を理解し、この授業が有意義であったと感じた学生が多かったと考えられる。自由記述では、「皆で話し合い、アイディアを出しながら良い発表ができるように協力できた」「自由に表現することの楽しさと気持ちよさを体験したことにより、個々の自由な表現を受け止め、表現の楽しさを伝えられる保育者になりたいと感じた」「子どもたちは自由に表現することが好きなので、子どもたちの個性を活かせる活動を考えるのが楽しかった」「授業が楽しかった」の記述あった。学生が音楽、身体、造形の各分野での表現や、それらを融合させた活動を体験することで、表現の楽しさを理解し、他者と協働しながら進めていく大切さも知ることができたと思われる。

（５）子ども文化演習Ｂ

問１の学生自身の授業の取り組みについては、評価通り、欠席者も少なくグループ活動にも積極的に取り組む学生が多かったように思う。

問２の「授業内容について」は、項目２（授業内容のレベル）項目３（授業の進度）では、4.33と若干他項目より低くなっている。これは、発表までに準備時間が少なかったことや、２コマ続きで授業を行ったことが関係している。

問３の「授業の進め方」では、4.39～4.52と高い評価を得ており、授業の進め方、質問などにおいては的確な対応をしてくれたと評価した学生が多かった。

問４の全体評価では、4.39の評価を得ており、この授業を経験して良かったと感じてくれたようである。自由記述では、「しっかりと取り組めた」「全員で協力しながら取り組めた」「学生の希望に応じた個別対応があり、主体的な学びを实践できた」「自己主張や他者理解の力を養えた」「ヨーフラの取り組みは保育者としての自信や自覚につながる良い活動である」等の記述があり、この授業の意図を理解し意欲的に取り組む学生や、学びに繋げた学生がいたことが伺える。今後の課題として、学生の主体性を引き出すための選択肢や方法の提案。学生が主体的に取り組むための動機づけが必要である。タイムマネジメントにおいては、学生が見通しを持てるような配慮や十分な準備期間の保持あげられる。これらの課題の改善と共に学生が達成感を感じられる授業になるように努めたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 音楽Ⅰ・Ⅱ

短期的目標	・楽典の理解と読譜力の向上。 ・こどものうたの特性を学びながら歌唱力の向上を図る。 ・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる学生を育成する。 ・グループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と、人との関わり方を学べる授業展開を行う。 ・ピアノや楽典では、ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個別指導を取り入れ、より丁寧な指導を行う。
長期的目標	・設備面の充実を図る。 ・学園内の自然環境を生かした、音を感じる空間づくり ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(2) ピアノⅠ／ピアノⅡ

短期的目標	・楽典の理解と読譜力の向上。 ・拍子やリズム感を養う。 ・ピアノ演奏、弾き歌い技術の向上。 ・コードや和音を使って学生自身が歌の伴奏をできるような指導を行う。 ・レッスン時間の確保。ひとり 18 分～20 分 ・リトミックで活用できる楽曲や演奏法を取り入れた指導。 ・歌唱活動での指導や進め方を習得する。
長期的目標	・設備面の充実を図る。 ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(3) 保育内容表現・音楽

短期的目標	・音楽を楽しむことができる保育者を育成する。
-------	--

	・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる保育者を育成する。 ・こどもが使う楽器の奏法を知り、演奏ができる。 ・こども達に合奏の指導ができる。 ・正しい発声方法を知り、程よい声量で歌うことができる。 ・こどもにふさわしい歌い方を指導ができる。
長期的目標	・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音を使った遊びや活動が考えられる保育者を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

6. その他

毎年2月には入学予定者（初心者・未経験者）に対して、ピアノ初級講座を6日間（120分×5日）実施している。1回目では入学予定者全員に音楽・ピアノについての調査と面談を実施し、受講が必要と感じられた学生に2回目からレッスンを実施。入学までにピアノに触れる機会を設けることで、ピアノに対しての不安を取り除き、入学後も意欲をもって取り組めるようにすることが目的である。

音楽Ⅰ・Ⅱ／ピアノⅠ・Ⅱでは、習熟度の低い学生に対し補習レッスンを行っている。

7. エビデンス一覧

- （1）各科目シラバス（音楽Ⅰ・Ⅱ ピアノⅠ・Ⅱ 保育内容表現の指導法
保育内容表現 子供文化演習B）
- （2）授業時配布プリント（一部）（音楽Ⅰ 保育内容表現 保育内容表現の指導法）
- （3）授業用 PowerPoint（保育内容表現 保育内容表現の指導法）
- （4）試験問題（音楽Ⅰ：筆記）（音楽Ⅱ／ピアノⅠ・Ⅱ実技）
（保育内容表現 保育内容表現の指導法 子供文化演習B：レポート）
- （5）成績集計結果（音楽Ⅰ 音楽Ⅱ ピアノⅠⅡ）
- （6）授業アンケート結果の考察（音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 保育内容表現 保育内容表現の指導法 子供文化演習B）